

スギ林の雄花調査結果（速報値）

本年度実施した「スギ林の雄花調査」の結果（速報値）は表 1 の通りです。

なお、本調査結果を踏まえた花粉総飛散量予測は、「平成 27 年春の花粉飛散予測（第 2 報）」（平成 27 年 1 月下旬頃発表予定）で公表する予定です。

表 1 スギ雄花調査結果

雄花着花量(個/m ²)			
地域名	H25	H26	前年比
青森県	8,921	11,629	1.3
岩手県	1,252	4,945	3.9
宮城県	1,036	3,852	3.7
秋田県	3,068	5,342	1.7
山形県	4,867	5,196	1.1
福島県	7,291	4,796	0.7
群馬県	—	4,833	—
栃木県	—	5,630	—
茨城県	8,642	10,303	1.2
埼玉県	3,881	2,823	0.7
千葉県	5,876	6,261	1.1
東京都	4,273	3,064	0.7
神奈川県	3,567	5,017	1.4
新潟県	4,567	5,305	1.2
富山県	2,454	7,940	3.2
石川県	8,656	3,267	0.4
福井県	2,854	4,316	1.5
静岡県	1,854	4,192	2.3
愛知県	5,488	4,605	0.8
京都府	2,724	2,982	1.1
大阪府	5,050	3,723	0.7
兵庫県	1,580	1,607	1.0
奈良県	2,660	1,449	0.5
岡山県	3,742	1,879	0.5
広島県	2,888	1,901	0.7
鳥取県	2,514	1,520	0.6
島根県	1,456	1,227	0.8
山口県	6,707	4,276	0.6
香川県	5,608	3,205	0.6
愛媛県	6,766	7,737	1.1
徳島県	15,376	10,960	0.7
高知県	12,481	4,527	0.4
福岡県	2,544	1,100	0.4
大分県	2,526	1,069	0.4

（環境省「平成 26 年度花粉症に関する調査・検討業務」、林野庁「平成 26 年度森林環境保全総合対策事業」より）

注：群馬県及び栃木県の観測は平成 26 年度より実施しているため、平成 25 年度はデータなし

【参考】スギ雄花花芽調査

スギ雄花花芽調査は花粉生産能力を十分に獲得した林齢 26～60 年程度の人工林で、雄花観測の対象となる条件を満たす 40 個体以上を含む広がりをもったスギ林をあらかじめ定点として設定し、無作為に選んだ 40 個体を対象として雄花の着花状況について双眼鏡を用いて観察する。観測対象となる個体を選定する条件は、林内木でかつ上層林冠を構成している個体とし、見えにくい個体や成長が抑えられている個体及び林縁の個体は観測の対象にしない。また、観測時期は、毎年 11 月中旬～12 月中旬の雄花が黄色味を帯び、針葉が緑色を保っている時期とする。雄花着生状態の判定法とその評価を表 2 に示した。

表 2 スギ雄花着生状態判定法とその評価（参考資料：林野庁「スギ林の雄花調査法」より）

【雄花観測結果】

観測個体の樹冠を観察した時の雄花着生状態を次の 4 つのランクに区分し、それぞれの本数を求める。

A：樹冠の全面に着生し、かつ雄花群の密度が非常に高い。 B：樹冠のほぼ全面に着生。

C：樹冠の疎らに着生あるいは樹冠の限られた部分に着生。 D：雄花が観察されない。

【雄花指数】

雄花着生状態を表す指数。上記 A～D の本数に重み付けの点数を乗じ、その合計として求める。

重み付けの点数は、A・B・C・D の順に 100・50・10・0 とする。

【推定雄花数】

スギ林内において生産される単位面積あたり（1 平方 m）のスギ雄花の数。スギ林内に落下した実際の雄花の数値を雄花測定値と言い、この数値と雄花観測から求めた雄花指数の相関関係から算出するもの。

雄花指数と雄花測定値との比較検証によって得られた回帰式より算出する。

$$Y=0.9934X+0.5842$$

$$R^2=0.9246$$

X：log（雄花指数）

Y：log（雄花数/m²）